

R-CAP for teens

「R-CAP」の診断を読み込み 進路選択の幅広さに気づく

— 京都・私立 京都聖母学院中学・高校 —

取材・文／永井ミカ



進路部長
樋口拓先生
進路部長補佐
天濃由美先生

School Data

創立1949年／普通科
生徒数／女子721人(中学313人・高校408人)
進路状況(2012年度)／大学進学87.8%・短大進学2.2%・専各進学5.0%・就職0%・その他5.0%
京都府京都市伏見区深草田谷町1
TEL (075)645-8103
URL <http://www.seibo.ed.jp/kyoto-hs/>

京都聖母学院は、フランスから派遣された宣教女をルーツとするカトリックの学校。レンガ造りの歴史的建造物を中心に、同じ敷地内に幼稚園から短大までが集まっている。中学・高校は近年キャリア教育に力を入れ、指定校推薦などによる進学や、一般入試で国公立大学・難関私大へ進学する生徒も数多くいる。

文理選択、学校選択に向けて さまざまな情報を提供

中学・高校の6年間を通して、キャリア教育の取り組みが最も充実しているのが高校1年。2年生で文理選択や志望校選びをする前に、「なるべく早く、なるべく多くの考える材料を提供し、じっくり考えてもらいたい」と進路部長の樋口拓先生は言う。4月には進路ガイダンスがあり、6月には「R-CAP」で適性検査、9月には適性検査の結果を生徒に返却し「自己理解」と「学問研究」のワークシートに取り組み。「生徒は結果をとっても楽しみにしていて盛り上がります。適性検査結果の中に具体的な学問の名前が出てくるので、大学の学問への興味が生まれ、知る機会になります」と言うのは進路部長補佐の天濃由美先生。二者面談の資料にしたリ、家に持ち帰らせて保護者と話をする材料にするなど、生徒に活用を促している。特にやりたいことがないという生徒の考えを引き出す材料としても有効とのことだ。また、模試で志望校を書くときに

見直す生徒もいる。同校では教員も適性検査を受け、職業や学問について知る機会としている。

その後、職業についてリクルートの講演、保護者や卒業生による講演、「文理・科目選択応援BOOK」を配布しワークシートに取り組みなど、進路行事が続く。2学期中に文理が決定し、3学期には大学を招いて、学部学科を紹介・説明してもらう。

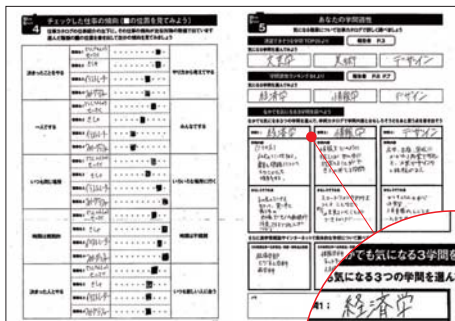
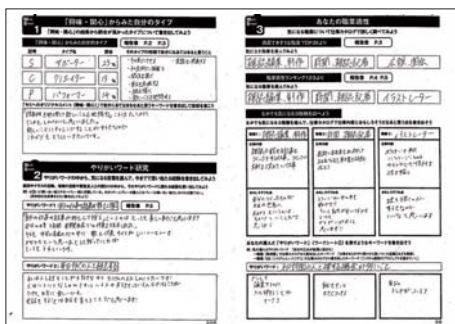
安易に進路を決めるのではなく しっかり自分で考えてほしい

これだけ生徒に多くの考える機会を与えるのはなぜなのか？「例えば、この資格があれば将来役に立つかもといった身近な情報だけで、あっさり進路を決める生徒も少なくないからです」と天濃先生。「向き不向きも考えてほしいし、本当にやりたいことを探してほしい。中には職業から考

えるのではなく、自分の好きな勉強をしていたら思いがけない夢が見つかったということがあってもいいと思います」。

キャリア教育に関する取り組みが増えるにつれ、各取り組みのスリム化などの課題も出てきているのは事実だ。けれども、やはり縮小は難しい。「3年生への面談で、どうしてこの大学のこの学部？とたずねると、1年生で受けたR-CAPがきっかけになっていたりします。そういうことを聞くと、どの取り組みもカットできないなど。進路指導のプランを立てるとき、生徒が段階的に進路実現に向けて階段を上っていくように考えてしまいますが、実際の生徒は途中で階段を下りたり、急に2、3段上ったりする。どこで何がきっかけになるかわからないので、刺激を与え続けるしかないと思っています」(樋口先生)。

「R-CAP」ワークシート



文理選択などを間近に控え、特に学問適性に興味をもってワークシートに取り組む生徒が多い。この作業を通して大学について真剣に調べる必要性を感じ、生徒指導室を訪れる生徒が出てくるなど、生徒の動きが活発化するそうだ。

